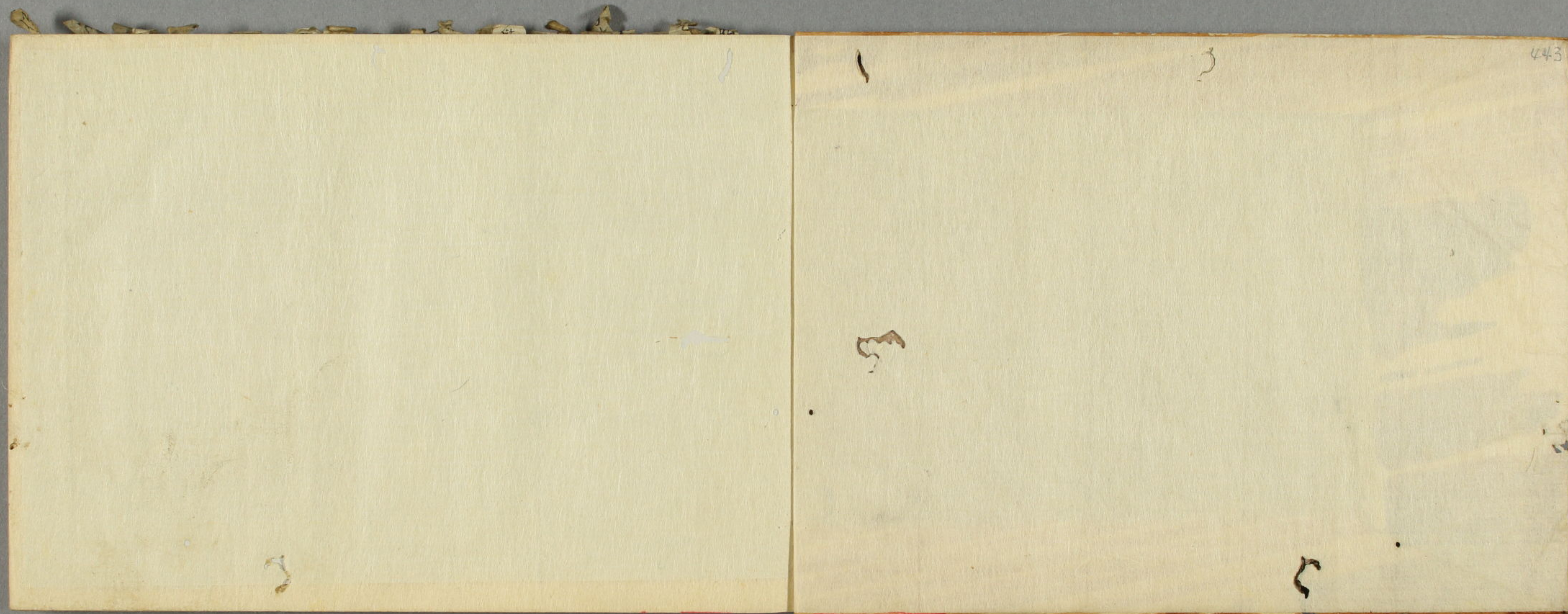


草露傳  
亭

73  
3645  
443





門 73  
號 3645  
卷 443

草露傳



五棋家

六



近衛 九条 二条

一条 齋日

右五家と稱するも、槐柄家

格政園白を七途よりて不

大政大臣 天子代りて万

機の政常也、可於格政の女

帝知帝の時、自政の所、右

右五家の一、名譽の嫡流也、

殿、庶流、名譽、名譽、

名譽、名譽、名譽、名譽、

二番、名譽、名譽、名譽、

時の友位、名譽、名譽、

名譽、名譽、名譽、名譽、

名譽、名譽、名譽、名譽、

當時所流、法性寺入道、  
後、近衛九条是也、近衛流、  
又分て為二

近衛祖、若狭、并、格政、  
園白、若狭、平、云、是、唯、馬、司、  
始祖也

九条流、又、分、三、焉

九条祖、若狭、平、云、是、唯、馬、司、  
格政、園白、良、実、是、三、条、  
祖、始、也

道家、弟、十一、子、格政、  
園白、実、是、一、条、祖、也

此、五、家、元、服、時、正、位、任、  
少、將、直、叙、正、四位

法性寺、格政、大臣、忠、道、公、嗣、  
院、大、兄、冬、嗣、十二、代、孫、也、

格政、園白、忠、道、五、代、  
孫、格政、園白、大、政、大、臣、若、狭、  
是、近、衛、流、又、忠、道、子、基、  
是、近、衛、流、又、忠、道、子、基、  
是、近、衛、流、又、忠、道、子、基、

志道、第九子、格政、園白、  
若狭、平、云、九、条、流、也

志道、第九子、格政、園白、  
若狭、平、云、九、条、流、也

志道、第九子、格政、園白、  
若狭、平、云、九、条、流、也







舟橋 舟橋 五十二文

同順迎 尚代

西三条 橋下 梅堂

堀川 赤井口

以上十七名を公方おの配  
を配りて法服して百子  
町園を本はし侍之侍奉も  
多し暇を申し御事を察  
ておのこがし侍奉と云ハ  
公方おの侍奉之侍も暇  
こののとも 侍奉と云

大長政 己の侍奉の  
大い入

三条 西三条 中院

右を大長政と云る是れ大長  
として大長、おのを大長と云  
大長おれとも 大長を云る

右殿を大長政と云ふ大長政り  
大長を云ふは法衣と云は法衣  
大長おのち殿の御おの天を  
御官、御り侍りて終りし人  
の御侍之

○百官唐名

右政大臣 相國 又左師

侍官ハ又貴の極官也 天子の

山師範として一天臣也此を  
以規程としておの侍りし  
任しつゝおの侍りし  
侍官を別置て皇於別置の  
次と云ふ由長一臣也侍官ハ  
世承に継ぎつゝ一臣侍官  
を好むの侍りし 在る大長  
を入てと云と云 御源とも云

泥をまぐ

又丞相

左大臣

左府

此の神中と法の政を其の  
その上の空下と云ふは  
一の長下なれは中の子  
沙汰は侍之何と云ふ  
そよひ一の土まのそよひ  
みよの付次の大長又右御  
もよりのそよひ侍之乞  
故一上と云

右大臣

右府

又丞相

此の神中と云ふは  
侍之左大臣実右府の左  
の儀を侍一の土ま法の  
帯多と云ふは侍之

内大臣

内府

此の神中と云ふは  
侍之左大臣実右府の左  
の儀を侍一の土ま法の  
帯多と云ふは侍之

大長

此の神中と云ふは  
侍之左大臣実右府の左  
の儀を侍一の土ま法の  
帯多と云ふは侍之



此の大納言を以て大納言と云ふ  
柄は清光の一人大納言の言  
かたは右大臣と世官を以て  
大納言と云ふ

大納言

世官世帯として大納言と云ふ  
大納言の言は右大臣の言  
を以て之を世官の言と云ふ  
花大納言の言は右大臣の言  
と云ふ也  
此の言は世帯の言と云ふ  
上ノ界りの言と云ふ  
又此の言は世帯の言と云ふ  
も言ふ 言は右大臣の言  
也 大納言の言は右大臣の言  
と云ふ也 大納言の言は右大臣の言

之と云ふは世帯の言と云ふ  
大納言の言は右大臣の言  
を以て之を世官の言と云ふ  
花大納言の言は右大臣の言  
と云ふ也

中納言

黄門

世帯の言は右大臣の言と云ふ  
大納言の言は右大臣の言  
を以て之を世官の言と云ふ  
花大納言の言は右大臣の言  
と云ふ也

大納言

連判

大納言の言は右大臣の言  
を以て之を世官の言と云ふ  
花大納言の言は右大臣の言  
と云ふ也

と云ふは三位に位の序列を分  
けしむ位署府三位の三階の  
後系朝長定長と孝に位の二  
階を以て承久定長朝長と孝と  
依此朝長名朝長と云執事の  
朝長と云ふは位一位より位小  
承と戸を以て何と姓朝長と云  
中将 羽林中將  
時常いふ不左を承中將と云  
大將の属友之是後を常一胡  
以源を負弓を將右衛門と云  
天子を親清志と云と云つて  
徳政を承の唐長を親清志と云  
大里臣位之位常長上人の三位  
中將いと名の列く大長の子孫  
りては唐叙しと云ふ之承人  
氏を承を以て中將と云

少將 羽林少將

是も奏を承少將之職常中  
將と云

侍從 拾遺浦叙

世友ハ 天子のを承に侍りて  
遺玉<sup>ステ</sup>少將を拾<sup>ヒロ</sup>遺<sup>ク</sup>の少將を補  
任之定長八人として又友之  
ハ八人の内三人ハ納言を承  
之侍從ハ左大臣少将と云と云友  
之ハ侍從之是ハ承中將の子之

八省

八省といふは八省の居るを承之  
又省を以て濠之世友を承と云  
之ハ侍從ハ八省ハ八省と云  
法友ハ承ハ八省ハ法友

中務 中書

世友ハ世中ニ婦人ノ子ヲ育ミ  
七有リキ事ナシ一ニ中務卿親  
王ノ任受ルシテ年々ニ往去漸ク  
リトハ氣大任ニ中書令ノ御  
中々大卿古御ニ中々大卿古御

式部

吏部

世友ハ又世ノ政ニシテ又官ノ界  
近ク子卿兼掌ニ世卿ノ親王ノ  
任受トシテ人々任之去御古御  
ウリ下リテ武官ニ任受テ吏  
部尚書卿之吏部大卿ニ去御之  
吏部卿中ニ去御之

法部

禮部

世官リテ世ノ事一皆度部  
ノ事ナシ唐陵ホノ事ヲ掌ル  
礼部尚書ノ御事ノ礼部尚書

去御古御

民部

戸部

世友ハ法部経官子卿兼掌  
ノ事ナシ世友ノ掌ニ戸部  
尚書ノ事ノ戸部尚書ニ去御古御

兵部

兵部

世友ハ武官ノ長シ武官ノ界  
近ク又官掌ノ事兵部尚書  
臣掌ニシテ又世友ノ掌ニ兵部  
卿之吏部尚書ニ去御古御

刑部

刑部

世友ハ獄を以テ罪人ヲ刑  
ノ事ナシ子活掌ノ事ニ中比  
下リ世友ノ掌ニ遠使ノ事  
移之刑部尚書ノ事ニ刑部尚書  
ハ去御古御

大花

大府

付友ハ法曹の所司也又ハ切符の形を裁きしを掌り大府ハ御之大府付事ハ大府之御少御ハ御之也

官内

工部司農

付友ハ百士の子や常少又攝少子をも少く掌之司農御之工部は常ハ大物也御之

諸寮

一 法寮ハ大の八省の多ハ法曹ハ八省の職掌を分て掌之寮司と法法寮の内也と武部ハ御之寮法目も年之既多ハ高ぬ位之

大舍人寮

官内

付友ハ曹中の右直又ハ左侍を掌之官内ハ既之官内也ハ御之

圖書寮

秘書

付友ハ御書物を買以御儀も墨ホの字を御之秘之也ハ御之秘之也ハ御之也

内蔵寮

倉部

付友ハ御衣令浸珠玉ホの字を掌り倉部ハ既之倉部也ハ御之也

縫殿寮

尚衣

付友ハ布帛の裁縫を掌り尚衣ハ既之也ハ御之也

白通寮

少府

付友ハ工内の子を掌中法より多ハ少御之也ハ御之也

世友の父が府少佐の如く

大學寮 世子

世友の與然僧徒を教皇への傳

承りてを司りて世子宗酒の如く

日業の如く

物寮 大楽

世友の言承りてを司りて大令

の如く大令の如く

言書寮 海陸

世友の言承りて又ハ子承りて

掌りて一ハ承りて一ハ御の如く

計寮 度支

世友の天下の人を承りて御の如く

御の如く承りて御の如く

承りて御の如く

之寮 礼田

世友の承りて承りて承りて

吏寮 御佐

世友の承りて承りて承りて

承りて承りて承りて

大炊寮 太令

世友の法承りて承りて承りて

承りて承りて承りて

承りて承りて

主殿寮 尚令

世友の承りて承りて承りて

承りて承りて承りて

承りて承りて

掃部寮 酒掃

世友の承りて承りて承りて

承りて承りて承りて

承りて承りて

左后寮 典廐

付後ハ天子の侍るの法子を  
掌典廐令之典廐令之

皇寮寮 武寮

世官ハ其母の子掌武寮令之  
及之武寮令之

法廐

一 法廐ハ其者ハ下法寮の之  
是ハ法廐令之法廐令之  
目と訓と

大膳廐 光沼大寮

世官ハ天子の所膳之御膳  
ホの子掌大膳令之  
此膳ハ膳令之天子ハ令之  
子ハ膳令之膳令之  
而ハ膳令之膳令之

右史之光沼令之

左右寮廐 京北

世官ハ京の町より之京西令之  
上寮令之京西令之  
北尹ハ史之京北令之

依廐廐 通化

世官ハ世中令之依廐令之  
世官ハ通化又尹ハ史之通化令之  
尹ハ令之

大令 大后大廐

天子御世母の子掌

皇大后寮廐

天子御母の子掌

皇后寮廐

天子御后の子掌

中官 皇后、同



世友ハ昔中ノ川下ノ園を以テ  
子ヲ養フ又於宋ノ府ニ遊シ  
此常ヲ戒ル之ヲ復シテ正ニ  
古ハ其人ハ大略ニテ各古風  
彦存ルヲ以テ之ハ年々  
此ノ如ク古風ノ正ニ

鐵部目 鐵深

世友ハ法性宗又ハ淨土ヲ  
以テ之ヲ深クシテ之

肉胎目 尚食

世友ハ天子ノ胎肉又ハ先嘗  
戒ノ事ヲ以テ尚食トシテ之

宋女目 宋女

世友ハ古ハ法性宗ノ宋女トシテ  
女ヲ以テ宋女トシテ之  
宋女トシテ之

之水目 胎卵 上林

世友ハ氷室ノ事ヲ以テ胎卵トシ  
正月七拾階ノ事ヲ以テ上林  
氷トシテ之

醜市

世友ハ京中ノ市ノ事ヲ以テ醜市トシ  
二ノ事ヲ以テ東京ノ市西ノ事  
西ノ事ヲ以テ市トシテ之

之胎 典胎

世友ハ東京ノ胎ノ事ヲ以テ典胎トシ  
典胎トシテ之

之馬 廐牧

世友ハ東京ノ馬ノ事ヲ以テ廐牧トシ  
廐牧トシテ之

衛府

一 衛府ハ武官トシテ之ヲ以テ



世中の津門を衛する及之八省の  
下法察の上法賦と曰ふ之を  
於清府の督の事由はに位之  
け傳ひ多し是友之教員と云ひ  
別在のゆゑ

左大東門 今言是門

世友ハ世門と云ふ子を嘗て  
之のときして大い字を語し清  
ふゆ之と云ふも大を思ふ  
と世と清と

左大東門 武清

世友津門を清と云ふをいふ  
ふ出入を撰之と云ふありあり  
と世由因るゆればと云ふ清  
のゆゑはるるをいふ

か納之 給子中

世友天子の室系を新屋と  
又いふを云ふは世を撰てと云  
及中と傳ふありありあり付  
撰法をいふを云ふ

外記 外史

世友ハ世友賦之世中と云ふ  
と云ふ又付世と云ふは世同  
叙位ホの事を嘗てと云ふ友  
中ハ世賦の事と云ふを云ふ  
能事ハ世と云ふと云ふ世中  
この事ハ世ハ史ハ人ハ人  
大政友と云ふ大長中納之云  
毎年の居居は世と云ふと云ふ  
世ハ世と大史と云ふと云ふ  
世友書と云ふは世友を撰  
と云ふ

日記 柱下

世友の勅を泥中、多命とて  
天子より、文のり中、茶し出  
り、常事之紀、序、常、大由、記、着、法  
常、少由、記、之

世友 珠門常

世友の珠門の論を日

深正 霜春

世友の常中の世、深正、世友を  
深し、世友、又、常中、と、号、し、心、を  
子、を、常、事、之、省、り、上、之、法、史、太  
史、の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之

勅令也 勾却

世友の天下の勅令を、世友  
の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之  
世友と勾却と、世友と判发と云

檢球遠使 使座

世友の判发は、天下の勅令の  
心、を、常、事、之、省、り、上、之、法、史、太  
史、の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之  
常、事、之、省、り、上、之、法、史、太  
史、の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之

世友 判发

世友の判发は、天下の勅令の  
心、を、常、事、之、省、り、上、之、法、史、太  
史、の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之  
常、事、之、省、り、上、之、法、史、太  
史、の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之

世友 判发

世友の判发は、天下の勅令の  
心、を、常、事、之、省、り、上、之、法、史、太  
史、の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之  
常、事、之、省、り、上、之、法、史、太  
史、の、事、之、中、正、の、大、所、少、所、之

中殿より 奉を清くおぼせ  
曹地下ゆか 清を清く  
侍

右、祀と市武家苗葉の  
おぼせの心清くおぼせ  
侍

位署式

一 官位おぼせの付り安を上、位を下、  
調之儀ふりおぼせも亦おぼせ  
名ふれい位をた安を下、調之  
左のしとく

中納言 次三位

左吉舟 次四位

左の舟 正六位下

右におぼせの位を安界より付り

おぼせを奉

正二位 行大納言

正三位 行左大舟

位昇安より、付りおぼせを奉

行三位 守大納言

行四位 守左大舟

行守の二字より、用りおぼせを奉

行五位 守大納言

おぼせ又より、おぼせを奉

左を清く大行三位 守

大納言 行左大舟

同位安の先文安奉

格中納言 行三位 守 行中官

安 右侍 侍

おぼせを依りおぼせを奉

行位下行中官 大進 总進 守

必位より上、書はもと持て

指政、関白、冬、

為人民、檢校遠使、列南

征夷將軍、法守府、

造東大寺、書、別發、決、

依、理、左、官、攝、使、別、發、決、

防、路、河、使、別、發、

施、系、院、由、合、人、

一、唐、名、を、撰、定、六十七代

陽、成、院、元、宗、文、永、中、右、大、弁

立、花、胡、卡、房、右、少、内、記、藤、田

胡、卡、忠、卡、二、人、三、テ、集、止、

草露傳 大附 文法 七

一、編者古案

足利宰相尊氏左馬頭直義  
以下一類等誇于武威  
經 朝憲之間所被証罰也  
彼輩鍛錐為隱遁身不可  
寬刑代深尋波在所不日  
可令誅戮於有戰功者可被  
忠賞者  
論旨如此悉之以狀

建武二年十月廿日 右中辨光宇 奉

武田一童

南禪寺住持職之事所有  
勅定也殊專佛法 紹隆



是日申の候 仰之次第  
三つ之より別して志は  
今之のふり

天正十一年十月廿 左中將

らうをちくまのち候

右候名の備旨の爲之に申付  
寺にお海子之れを官備との

着香衣令参 内宣  
奉祈 宝祚延長者  
仍執達也併

年月日 檀太が辨判

智恩院東寺

正堂寺住持名卷上人

内房

右候と落書一枚又一枚にて

一 院宣古案

渡所差上色に摺糸一枚と色  
桂一浮了南流す妙字の落書  
併して海山小若所之揚里より  
丹波國一宮七雲社者蓮花之院  
仰領也預給能盛法中本末今  
知所何有称地頭軍裁本末  
又不及開食而号彼仰下文  
玉井口部重資忌押領其理可  
御有有限佛領名可有異候  
事也早可停止併巡行之中令  
下知給可宜之申 院御乳色  
惟也仍執達也併

八月廿日 右衛門権佐

權上兵衛佐殿



右々天文十一年七月十日音迫深保  
らる一江を遠法法八甲七ノ  
主廣帝天永宝字六年十月十日  
初を江別保言るを移し旧教之  
因廿日保言旧教を管行の故  
と 當今開百今日保言(勅書)  
必書と或言る三より

け之よひつき少延をれり  
ゆをた悦いし勝たり  
すのま敷無常を令く  
朝廷の光輝にしつり  
おり海よひひりし  
の由ん新く即ひり  
存れよういそく伴く  
千とをれ粘とわぬねめ  
色とふりしたさのめめ

くわいんこくちとく  
くえしちりし

右々仙洞震平の勅書月日  
言とらり 封日中  
辨行布目 招系一

一 宣旨

壽永三年二月十八日  
近年以降武士輩不悛  
皇憲恣糴我威成自由  
知迴諸國七道或押躰神  
社之神枕或棄取佛寺  
之佛聖况院官諸司及  
人天譴遂露民之憂  
無空自今以後永被停  
止敢莫更然前事之  
存後輩可慎若於自由



緒散位源朝長賴朝  
相訪子細觸宮言上不  
道行旨猶令違犯者  
專外罪科不曾寬宥

藏人頭丸中辨兼后宮亮藤原光雅奉

一 官位 宣旨

從五位下藤原通定

正三位行權中納言藤原朝臣光政  
宣奉 勅件人宣令任

拱津守

萬治元年十二月七日。

亦記兼掃部頭造酒正中原朝臣而定

一 令旨

伊豆國在廳北条遠江守  
時政之子孫東夷等兼

久以來採四海於掌奉  
茂如 朝家之處頃  
年之間殊高時相摸入  
道之一族匹當以武藝  
業惱 朝威刺奉左  
遷 當今皇帝於隱  
刈惱 震襟亂國之条  
下刻上主至甚奇怪之  
間且為如正伐且為奉  
成 還幸取被 召集  
西海道十五箇國內群  
勢也各奉歸 帝德  
早相催一明之革卒軍  
勢不廻時日可令馳參  
戰場之由  
大塔二品親王令旨之狀如件

元弘三年三月二日 左少将之恒奉  
大山寺衆徒中

一 宣命

貞信公と三条右大臣(揚子)の  
宣命の由より是は仁大長(の宣  
命)之を承法法(贈位)贈官を賜  
あり奉とて奉中(の奉)奉法  
は宣命傳。曰二月と七月とあり  
多撰(吉)日廿二(社)古幣(の)伊勢  
練紙(か)有(は)尾  
一(は)紅梅(の)赤(石)流(の)平(中)程(の)  
春日大系也大津石上大和廣  
濃赤田(の)右(梅)文(高)田(程)等  
中(丹)布(貴)舟(之)小(の)は(一)  
貴(師)之(凡)宣(命)ハ(授)賞(勅)奉(て)  
由(記)小(丹)志(の)給(ふ)と(り)り  
由(記)日(北)昔(高)程(法)系(中)系(の)儒

門より

大臣奉勅命由記今依(依)進  
大臣給使(使)賀(賀)前(前)尾(尾)紅(紅)紙(紙)を  
賜(賜)ふ(は)大臣(大臣)の(の)心(心)也(也)

天皇我詔旨(詔)宣(宣)大(大)命(命)手(手)親(親)王  
諸(諸)臣(臣)百(百)官(官)等(等)天(天)下(下)公(公)民(民)衆(衆)聞(聞)食(食)  
宣(宣)食(食)回(回)乃(乃)法(法)止(止)定(定)賜(賜)此(此)行(行)賜(賜)北(北)  
國(國)法(法)隨(隨)仁(仁)先(先)立(立)先(先)立(立)止(止)右(右)大(大)臣(臣)  
正(正)二(二)位(位)藤(藤)原(原)忠(忠)平(平)朝(朝)臣(臣)手(手)右(右)大(大)臣(臣)  
官(官)任(任)賜(賜)布(布)又(又)宣(宣)大(大)納(納)言(言)正(正)  
三(三)位(位)藤(藤)原(原)定(定)方(方)朝(朝)臣(臣)天(天)於(於)朕(朕)  
近(近)親(親)介(介)毛(毛)在(在)又(又)司(司)仕(仕)奉(奉)支(支)次(次)介(介)毛(毛)  
在(在)介(介)依(依)天(天)奈(奈)毛(毛)右(右)大(大)臣(臣)ノ(ノ)官(官)介(介)治(治)  
賜(賜)ハ(ハ)止(止)勅(勅)不(不)天(天)皇(皇)大(大)命(命)衆(衆)聞(聞)食(食)  
止(止)宣(宣)フ

一 官符古案

勅事... 大政官... 官符...

左辨官下東海東仙道諸國

可早追討伊豆國流人右兵衛  
依源朝臣賴朝并與力輩事

右大納言藤原實定 宣奉勅

伊豆國流人前右兵衛權依源賴朝  
忽相詔凶惡徒黨欲屠掠當國

隣國叛逆之甚既絕常篇亘

令右近衛權少將平維盛朝卡

薩摩守同忠則朝卡參河守

同知盛朝卡等追討波賴朝

及與力輩兼又東海東仙道

堪武勇者同可令備追討共

中拔殊功輩可加不次賞依

宣行之

治承四年九月六日。

藏人左中弁藤原朝臣経房 奉

左辨官 五畿内 東山 北陸 東海  
山陰 山陽 南海 西海

已上諸國

早賴朝朝臣可令為征夷

大將軍

使 左史生中原康定  
右史生中原景家

右左大弁藤原朝卡兼實定宣

奉勅從四位下行前右兵衛

權依源賴朝朝卡可令為

征夷大將軍者宣令兼知

依宣行之

壽永二年八月日 左大史小槻若稱

左大辨藤原朝卡在判

大政官府諸國

早令停止國衛在國地頭非法  
巡妨事

右内大臣宣奉勅備依令追伐  
平氏被補其跡之地頭稱勲功  
之賞非指謀叛跡之處充行  
如微課役張行檢斷妨惣領  
之地本責煩在廳官人郡司公  
文以下公官等之間國司  
領家所訴申也然者仰武  
家現在誣反人跡之外者  
可令停止地頭符之狀如件  
依宣行之府到奉行

文治二年十月八日

修理左宮城使定四位上左中辨  
兼中宮權大進藤原朝臣

正六位上行左少史大江朝臣

太政官符

左京職

應追位記事

正二位藤原朝臣兼長 出雲國  
從二位藤原朝臣師長 土佐國  
正二位藤原朝臣教長 常陸國  
右正三位行權中納言兼左兵衛督  
藤原朝臣忠正 宣奉 勅件人  
等座事件配流于國々 宣仰  
波職可令為追位記者職宣為  
兼知仍遣行符至奉行

保元二年八月三日

修理宮城使正位下左史兼兼博士  
左辨官正五位下藤原朝臣

依中宮定子白王子御德妊  
流人伊周可飯落田  
御氣色所候也仍執達辨

長徳三年四月十日

右去花山法皇の関白伊周が  
中納言隆家ト奉射答り伊周  
シ汎紫隆家の出雲ハカサル  
トキ中宮定子白王子御懷妊アル  
定子ハ伊周ノ妹之頼光冬三  
内ニテ流人伊周シカハサルヘ  
ト奏聞申サルトキノ免状ノ  
古案之

一 解官家官符

解家

大藏卿总侍后持守シ隆羽奉経  
右馬頭シ隆羽片経仲

加成

侍従藤原朝臣高経

越前守高階朝臣高経

少内記中原信康

左大臣宣奉 勅件ノ人等宣

令解却見任者也

文治元年十二月十七日

口宣案 宣ニ一五位一左  
浮雲外ノ羽也

上総中山大納言

文明三年八月二日 宣旨

藤原康人

宣叙従五位下

藏人頭右少辨藤原之恒 奉

大ハ位メ口宣之浮雲  
引ラレシヨリ



阿部朝臣定高

備中守

從五位下

是八慶安四年十二月廿九日叙位任後

口宣二通 阿部備中守

職事方里小造左少弁

上邑子之と付あり 宣旨  
とと左のとく 宣旨

從五位下藤原朝臣定高

從二位行權中納言藤原朝臣言綱

宣奉 教行人宣令任

備中守

慶安四年十二月廿九日 大外記。

掃部頭造酒正中原朝臣師定

藤原定高阿部備中守

一位記之素

口宣素二色 宣旨一位記

一通以上口宣地下一通也

源朝臣重直

右可從五位下

中務表節兵欄宣勤羽衛精誠

每懈夙夜在公宣授采爵用旌

寵章可依前件主者施行

万治元年十月廿七日

二品行中務卿智忠親王

從五位守中務大補臣藤原朝臣清

正四位下行中務少補臣藤原朝臣祐正

正二位行權大納言臣 公理

正二位行權大納言兼右近衛大將臣廣道

從二位行權大納言臣 賴業

從二位行權大納言臣 兼時

從二位權大納言臣

資行

從

資慶

從

基熙

從三位行權中納言臣

永敦

正三位行權中納言臣

嗣孝

正三位行

基緣

正

隆貞

正

俊實

正

宗條

權中納言從三位臣

熙房

權中納言從三位臣

權中納言從三位臣道茂等

言制書如右請奉

制附外施行謹言

萬治元年十二月廿七日

制可

月日辰時從四位上行大外記兼

掃部頭造酒正中原朝臣師定

右中辨經慶

關白從一位朝臣

大政大臣嗣

左大臣嗣

右大臣正二位朝臣

內大臣正二位兼行左近衛大將朝臣

兵部卿嗣

兵部大輔嗣

正五位上行右大弁兼茂

告從五位下源朝臣重直奉

制書如右符到奉行

正五位下行兵部少輔承貞

大錄



少録  
少録

万治元年十二月廿七日

右是と位記之讀取亦と感く  
おと世之地下の書取不入候  
身しつわぬの物とと換を足  
と書同の記の古書也と云  
凡編者院宣口宣素ハ落書  
紙之宣旨と令有ハ川合位記ハ  
多子并之其約有り神宗檀銀  
練借と細と云と云の

草露傳

大内文法  
女房奉書 八

一 女房古書品

内侍宣と云て殿宣の紙と奉て  
掌付より上に各ハと付を内侍  
宣と云けハ准拠品と云ハ  
伝來書ハ之書と云ハ紙と云と  
て是を女房古書と云地下ハ  
下ハ此下ハ沙汰有  
傳奏元と云り大信納云冬三  
漢中ハ出ハ此元也と云有り  
掌付棟秘冲抄曰正日人  
控二人ハ内侍一掌付属句  
苗内侍ハ掌奏法宣傳自  
初軍莊内妻ハ元奏句當  
近世場佛氏長志号別お寺

信申勾当請共定一此  
居布を若穂房と云ふ若穂  
成三古書と云ふと白濁内侍の  
子と云ふ教の若穂と云ふ  
中書

お書うむちやう院  
の由きうとんわんの子  
たい西たう取集と云ふ  
を子と云ふてい首た  
あいやの使く一う  
いんれと云ふと云ふ  
れと云ふ一付と云ふ  
うと云ふ下取を  
うと云ふと云ふ町と云ふ  
うと云ふと云ふと云ふ  
うと云ふと云ふと云ふ

初所

信打

あま

あせの

幸

うあこのやう

ひりて

うら

ちあん

うら

うら

うら

うら

腰文と云々

仰 正光

封

裏

表

あま

中納言と云ふ

大のりこし  
 元龜三年の元龜三とど  
 正月廿八日と云ふ又信  
 月らるるも  
 名は  
 師と  
 女房

表

おり  
 百  
 ぬえ  
 千  
 馬代

裏

ぬえ  
 ぬえ  
 ぬえ  
 ぬえ

三系大  
 中

女房  
 川合  
 三光院

一  
 女房  
 川合  
 三光院



竹中氏遷居に付て震業に  
勅書頂戴志を以り希む乃  
中業のしげくを以り  
武門の繁昌に期を妻泰の  
御老免よりしひそく百  
たの忠に後多きあり  
清くぬれしといふに  
万世にいとあひかりん  
てしとことしり多きあり  
叶たれしき 天徳におよそ  
後ひよりし

月日 御清法判

東福門院  
法方

一 傳奏元より清法文

為子南より清法文  
清法書に教と被  
露如女房書と  
清法書に付て宣  
清法書に宣

西りた八日 通村  
実條

吉良おね

清法書に宣  
清法書に宣

吉良おね  
通村  
実條

一 勅書御清法書

尚官に東より清法書に宣  
清可路忠次征伐に未絶  
と系先歎辭一官東北

秋既亡南密西戎蓋屈平  
當方國安寧曰海平始付  
應登用 勅令改揀梁  
隆梅忠矣然若顯爾可令  
張與嫡子信忠曰臣宜  
奏達作也

四月九日

信長

願右中弁發

願右中弁發 信長

去年冬下 勅書別  
一指中流如依可等延門  
北跡畧之柳十七ヶ所内  
大慈院可也 勅定辰  
之山と海に子細常流  
歳と成り不依多少下

中弁 以官官之抄録也

五月十二日

義晴

勸修寺大納言發

為界進之清元御古力一應  
其令二十箇左左流進進之  
仕臣宜 奏國に於元進  
願右中弁也

七月廿六日

義晴

廣橋中納言發

有春御相抱小河坊城家  
代官殿事以仰膝懸心之  
必仰付之矣下畏好之  
臣 奏國別与於元進  
願右中弁也

十二月十三日 義晴

勸修寺大納言殿  
廣橋大納言殿

有春と云ふ御門之位の事  
御料御一筆

淨忠久しと云ふ水田代官職  
末子細々と云ふ御但名之御  
目上少少分と云ふ御料  
正室御時と云ふ御下御料  
奉返てお申す御料

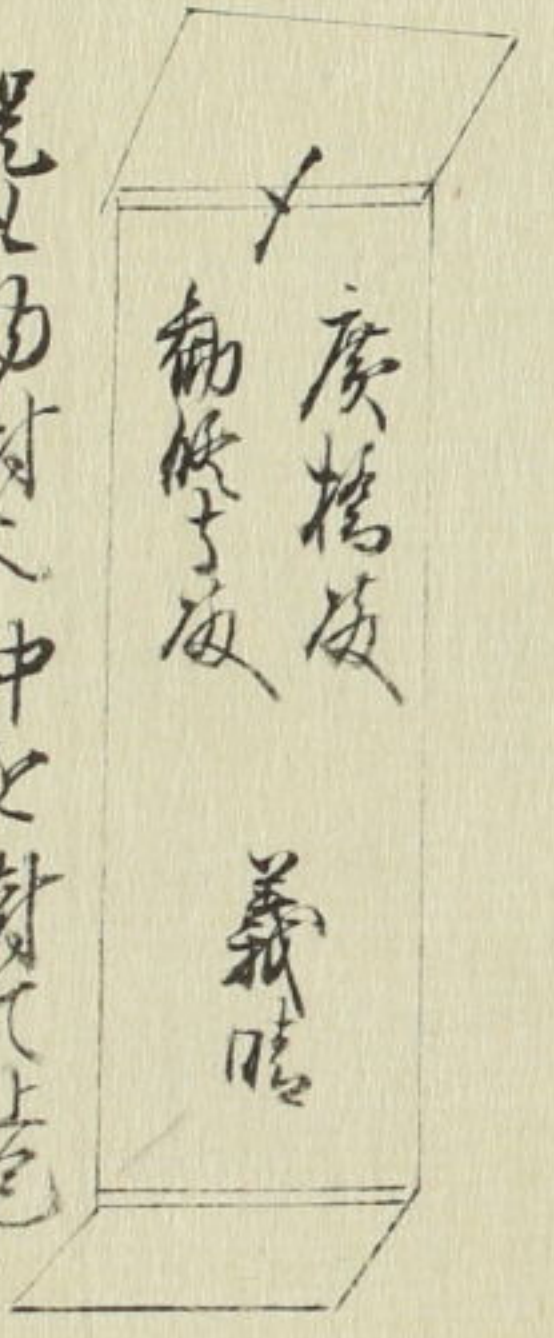
十一月廿六日 義晴

廣橋中納言殿  
勸修寺弁夜

右に通る古案

後奈良院御宇方於院義晴  
清内書之叶案女大彼庭の佐

徳光洞達の中



是より封之中と對て上巻  
下巻と云ふ御料にて此の勸修寺  
の末子細々と云ふ御但名之御  
光法石室と云ふ御下御料  
古案と云ふ御料と云ふ御料  
是の弁夜と云ふ御料と云ふ御料  
種家公と云ふ御料と云ふ御料  
先礼ホハハハと云ふ御料と云ふ御料  
又廣橋  
殿の御料中納言と云ふ御料  
中納言と云ふ御料と云ふ御料  
御料と云ふ御料と云ふ御料  
御料と云ふ御料と云ふ御料





禁裏 仙洞沙氣色快得中  
宜以時令況入以時宜宜逢  
獻國作法

月日 仰澤  
宜在傳奏

今度 讓位 即位 昇帝  
在明員交存 以奉況  
羽衣 昇帝 宜在 宜在  
使志 宜在 可濟 宜在  
宜在 獻國 宜在

月日 仰澤  
宜在 仰澤

內裏 遠望 厥統 孫喜辰  
法移 況 宜在 宜在  
相考 宜在 宜在 宜在  
奏達 宜在 宜在

月日 仰澤  
宜在 仰澤

今度 宜在 后 宜在 宜在  
朝廷 宜在 宜在 宜在  
為 宜在 宜在 宜在  
進 宜在 宜在 宜在

月日 仰澤  
宜在 仰澤

皇子 降誕 宜在 宜在  
宜在 宜在 宜在 宜在  
宜在 宜在 宜在 宜在  
宜在 宜在 宜在 宜在  
宜在 宜在 宜在 宜在

月日 仰澤  
宜在 仰澤

國母白堂とまゝ一巻  
三つてを上げ山ありとを  
川て中わけに能やうと云  
くしやふれと云ふ

月  
白苗内侍つらゆ

一 傳奏ハ巻中由書

わぬまゝかたきり一巻  
言一尺相とていれ相吉良  
付戻りていれ

月  
二條大納言

中院の同

一 指板と云ふ 指板とは  
指板と云ふ之を言を執  
柄と云ふ云々末 通清九条

の二流よりぬ家々城々を流  
より帯目の家々九条より  
二条一糸の家分までおのり  
あま尚友大信と入しり  
とれ流法と云はれし人の中  
なとハ言しつた流法を言  
と云ふ又け方の成り回法の  
いふ友おとく忘はたは花  
いしとて流法と云つて眼  
付あり

左之流法界達と云ふ則  
今申流法は次太刀一腰言  
一尺大巻一尺餘 白布  
自電又ハ依古刀一枚  
再新指一口 釘子 宜流法流  
一むむと云ふや 忘流法

卯月三日 義晴

之色と因ありたるを非信の  
関東抄のりし

清原朝臣の御子清原朝臣の  
少将の系にありし何れも  
宜しき御子也 此御子也

二月廿九日 義晴

迎清殿

清原朝臣の系に大抵目ありて  
これ大抵毎朝の御子に用ひ  
御子ありし御子也 此御子也  
も御子に御子ありし御子也  
御子也 此御子也 此御子也  
此御子也 此御子也 此御子也

一 親王とありし御子也 此御子也

ありし御子也 此御子也  
御子の御子也 此御子也  
御子の御子也 此御子也

一 門下御子也 此御子也

ありし御子也 此御子也  
御子の御子也 此御子也  
御子の御子也 此御子也  
御子の御子也 此御子也  
御子の御子也 此御子也

正月七日 御子也

平渡院殿

此御子也 此御子也

御子也 此御子也  
御子也 此御子也  
御子也 此御子也



下ニ昏文面ハ間遠カ  
傳記ニモノ文而ニ  
左右ノ遠ニ見ユルナリ  
腰ト白ニ遠ナリ

一 進為討書付

何、修、表、入、以、何、  
分、也、或、何、併

月、 判、判、斗

大承院修正法房

一系院修正法房

光承院之修正法房、同堂之大概、因之  
何、而、來、表、入、一、進、之  
法、或、何、併

月、 判、判

大承院修正法房

光承院之修正法房、同堂之大概、因之  
何、而、來、表、入、一、進、之  
法、或、何、併

一 法 光源院後法務部

寺(光承)古案

今度、下、門、法、之、依

敷、無、為、法、吉、刀、一、張、吉光 青、洞  
万、大、法、之、目、出、於、宗、案  
下、一、也、之、法、之、

三月九日、 判、判、判

下、法、寺、殿

上、色、回、と、同、字、之、下、法、寺、殿  
法、書、之、法、判、判、元、大、修、案  
佐、時、光、相、夫、之、法、判、判、元、大、修、案  
寺、(光、承、)之、法、判、判、元、大、修、案  
門、法、判、判、元、大、修、案  
也、心、得、之、法、判、判、元、大、修、案  
殿、又、ハ、實、法、院、後、法、務、部、  
也、心、得、之、法、判、判、元、大、修、案  
也、心、得、之、法、判、判、元、大、修、案  
也、心、得、之、法、判、判、元、大、修、案  
也、心、得、之、法、判、判、元、大、修、案

子持たす中と区多事と  
一 浪高林院成茂植之沖比丘尼  
法布(古果山自宗)沖由書  
あまふ中法(や中)一  
のま(一筆)九(ひ)一  
おわん(足)十(後)あり  
もら(一)す(一)を  
二(ひ)さ(一)り(一)ら  
く(一)と(一)の(一)も  
一(一)は(一)ま(一)さ(一)お  
り(一)と(一)又(一)と(一)を  
上(一)ま(一)さ(一)み(一)ち(一)け  
ら(一)す(一)な(一)ん(一)に(一)を  
上(一)り(一)し(一)給(一)ら(一)し  
ひ(一)か(一)ら(一)ふ(一)し(一)も(一)と(一)花  
一(一)入(一)り(一)し(一)ら(一)く

又(一)と(一)ら(一)ん(一)給(一)ら(一)し

植

星花院成

ら

右法成(一)の(一)事(一)と(一)ら(一)し  
と(一)ら(一)し(一)又(一)ら(一)ん(一)給(一)ら(一)し  
三(一)回(一)と(一)南(一)の(一)御(一)布(一)一(一)事(一)の(一)  
と(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)  
大慈院と(一)ら(一)し(一)大慈院の  
は(一)又(一)南(一)御(一)布(一)一(一)事(一)の(一)と(一)ら(一)し  
と(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)と(一)ら(一)し  
下(一)ま(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)と(一)ら(一)し  
と(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)と(一)ら(一)し  
山(一)寺(一)成(一)る(一)と(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)と(一)ら(一)し  
と(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)と(一)ら(一)し  
と(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)と(一)ら(一)し  
と(一)ら(一)し(一)と(一)法(一)成(一)寺(一)号(一)と(一)ら(一)し

生(一)年(一)の(一)事(一)と(一)ら(一)し

後河原左之入の由に由るの由も  
あり

南の由あり

わらわりのもあり

一 大右衛門

北の由あり

月日 沖津

久我由大右衛門

一 大中納言

於鳥山氏於納言下書

於山

月日 右同

廣橋大納言

中院中納言

一 宰相三位中納言

於鳥山氏於少納言下書

於山氏

月日 右同

平於宰相

於尾宰相

一 二位中少将

於細川氏於納言下書

月日 沖津

東邊中納言

肥前少将

一 二位付長

於細川氏於納言下書

月日 右同

於下付長

一 二位大納言

於細川氏於納言下書

月日 右同



松平道源より

官途ニ申任左京右史沈  
同濟儀宗等自松平大將の  
一述也

八月十九日 沖判

大崎より

文成、半任、三河吉元  
松平大將の御書也

月、沖判

右京左史より

右御書に申任左京右史半  
田書法之由教書沖判書  
と云ふ事これに相違是に御  
の由之由之由之由之由之  
二京の名目あり御書に  
と申由書より小文に申を由

由由書より由由之由之由之  
申由書より由由之由之由之  
と申を由由之由之由之

一 女中方の由由書より文に  
知りぬとも申書に申り  
取の松平由由子の由之由之  
と云ふ事これに相違是に御  
知りぬとも申書に申り  
一 申書に  
左京右史の由由書より文に  
と云ふ事これに相違是に御  
知りぬとも申書に申り  
申書の由由書より文に  
と云ふ事これに相違是に御  
知りぬとも申書に申り

一 編者院宣口宣小沖判



白紙付方官達  
天徳作念一様云  
月  
三系大納之版  
孫号友  
実名

右清治の古本大納と  
下の所之派大納  
奏達  
宣紙  
申留

草露傳 公卿文法  
年鶴之部 九

一 禁裏ト大后ト

此有官之派 奏達  
清

月日 山階内右  
実秀

三系大納之版

又在右大后ト宣紙 奏達  
と云書古本あり孫号友も  
あり名号升トあり  
公方様ト之版之

一 派大納之字お

世古宣願派 奏達  
難言 心ト派ト

月日

称号友

名宗

三条大納言殿

一 曰五位上 淡坂上人

此等之類 宜預請

奏達 作某誠恐難言

月日

称号友

名宗

右院御前 奉命之同類

宛右列 尚殿と申す 臣等

之人より 宜承 請被 願ひ

書も有

一 將軍 淡大右殿

此等之類 宜預請

宜承 又此等

月日

津斗

細川武敏少將殿

一 淡大申 御之 宰相

此等之類 宜預請

宜承 又此等

月日

称号友

細川武敏少將殿

武敏の請方 由右と申す 此等之類

大申 御之と申す 宜承 又此等

宜承 又此等 宜承 又此等

一 淡大申 御之 宰相

此等之類 宜預請

宜承 又此等 宜承 又此等

宜承 又此等

月日

称号友

名宗

細川武敏少將殿

大友よりて宣放達  
 上園のともを所と致露の  
 ありしとて古葉もよむ  
 上人の位中ね五位は原の  
 子とて思して云々と云ふ子細  
 あり大信及一位二位の友人  
 と云とて名子の下にその名  
 と名子の之堂寺化人と云孫  
 阿比之大中納言宰相等の  
 友の名子の下に、御の字と有  
 又三位の月、所して月  
 御とては六位の昇殿の人と  
 雲に所して雲密と云と  
 天子と見、たは、古葉と云  
 一 浪大信  
 親王 揚殿 并  
 りね

叶音五合ト後  
 云々

孫号友  
 名子

月日

伏見殿

誰と云々

大覚寺殿

誰と云々

一條殿  
 誰と云々

大人よりて宣放達 唯后の  
 宣旨と云ふ所は、誰と云  
 ても、古葉と云ふは、古葉と云  
 事、由、由、由、又、古葉と云  
 古葉報多り

一 派大中納言宰相

付有宣紙の御書あり  
心く御書

孫号友

月日

家目名

又派大納言東九の古案もわ  
判し未誠忠清とて清中  
と云ふ又中納言のり  
未忠清言ある日為宰相  
うり未忠清言違上と  
書り之取目多々古案  
とあり然るより

一 派曰臣在彼上人

世号之敏奉御御  
技藝作忠清言

右人より付与とて上関  
り派清挑の奉教り未忠清  
忠清言と云ふ事と古案  
とて未忠清大右の清とて  
清又同々の清とて古案  
とて忠清の古案と

一 派大中納言宰相

清忠大右の事

可得言言作及之權言  
忠清言

孫号友

名字

月日

久我内大臣

未忠清

又在代肩書に未忠清を  
付の由有御書とて古案  
古案と云ふ事とて古案

一 浪江屋敷上人ハ  
時者 市序之刻 市屋  
市屋 齋作 某 坊首  
城 忌 様云

名 字 氏  
月 日  
家 目 名

右 古 書 多 計 某 二 三 時 方 の 書  
名 之 實 名 を 忌 壇 之 上 筆 子  
數 之 月 日 の 下 小 七 實 名 あり  
これ 二 三 也 如 由 歎 之 也 又  
人 寄 付 申 入 官 紙 法 被 書  
之 書 法 之 正 調 之 也

一 浪 大 臣 某 御 之  
坊 之 又 之 海 之 七  
月 日 津

山 村 大 納 言 殿  
飛 鳥 井 中 納 言 殿  
中 右 衛 門

大 臣 某 二 三 官 名 之 書 是  
る 古 書 之 上 七 時 方 之 下  
拾 五 坊 之 上 市 之 坊 之  
上 官 紙 之 上 七 時 方 之

一 浪 中 納 言 某 御

忌 壇 様 云  
稱 号 友  
月 日  
某 氏

山 村 大 納 言 殿  
某 氏 市 中

一 浪 坂 上 人

某 忌 壇 様 言  
稱 号 友  
月 日  
某 氏





柳永宰相跋

未

一 淡大申納之三位中納

之御清法

之御清法

稱号友

月日

柳永宰相跋

少者亦

右人より今中納と淡  
月の下、名字は年より  
古事より皆お願ひし  
ふ

一 淡大申納之三位中納

之御清法

稱号友

月日

主

柳永宰相跋

少者亦

一 淡大申納之三位中納

之御清法

月日判

飛鳥井中將跋

一 淡大申納之三位中納

之御清法

之御清法

稱号友

月日

主

飛鳥井中將跋

少者亦

一 淡大申納之三位中納

之御清法

月日

稱号友

主

飛鳥井中將跋

少者亦

又飛舟并殿進啓ししと年  
つら古案しりつ又法方花  
舟并殿と幸しつ古案しり  
つらハ親文はしつ時めし  
飛舟舟中殿と幸しつと幸し  
法方とハ幸しつと幸しつ  
幸しハお早斗幸を榮統と  
一 法大長 日み位殿上人、

何と云

月判

舟早付法殿

早川附馬さめ

一 法大申御之幸お二位中納

法と云

月日 祢号友 名子

舟早付法殿

早川附馬さめ

人より祢号友と云幸名  
舟早付法殿と云

一 法大長 中納

舟早付法殿

祢号友

月日 名子

舟早付法殿

小倉宰相殿 舟早付法殿

是ハ同封之旨所止上春回の  
書すめりつ以安礼殿ハ  
法方と云幸表 舟早付法殿

一、此、去、地、而、送、合、之、所、為、  
の、代、り、と、我、を、分、成、さ、し、者、  
言、事、を、由、り、當、上、に、と、し、お、返、  
す、と、申、す、

書、同、言、り、詞、口、也

才、一、一、筆、始、上、仕、作

一、筆、改、修、也

才、二、一、筆、中、也、今、修、也

改、修、也、呈、一、箱、也

呈、恩、札、也、二、ヶ、条、也、一

才、二、一、筆、中、也、詞

才、一、一、筆、人、始、也、

古、法、不、中、也、也

才、二、一、筆、修、也、中、也

一、一、也

返、札、口、也

才、一、尊、札、書、改、修、見、也

才、二、貴、札、書、改、修、見、也

才、三、防、札、也、深、淺、也

才、四、防、札、也、深、淺、也

才、五、防、札、也、深、淺、也

書、同、言、也

才、一、何、一、筆、所、仕、部、也

何、一、筆、也、何、一、筆、也

才、二、何、一、筆、也、何、一、筆、也

才、三、何、一、筆、也、何、一、筆、也

才、四、何、一、筆、也、何、一、筆、也

何、一、筆、也

返、札、口、也

才、一、一、筆、也、何、一、筆、也

改、修、也、也

廿二 改述候ハト述テ

廿三 述テ候

廿四 改述入テ 述テ

廿五 述テ入テ 述テ

廿六 述テ入テ 述テ

廿一 冥加相付難ニ候事

冥加相付難ニ候事

冥加相付難ニ候事

冥加相付難ニ候事

廿二 冥加相付難ニ候事

廿三 冥加相付難ニ候事

廿四 冥加相付難ニ候事

廿五 冥加相付難ニ候事

廿六 冥加相付難ニ候事

廿七 冥加相付難ニ候事

廿八 冥加相付難ニ候事

廿九 冥加相付難ニ候事

三十 冥加相付難ニ候事

廿一 冥加相付難ニ候事

廿二 冥加相付難ニ候事

廿三 冥加相付難ニ候事

廿四 冥加相付難ニ候事

廿五 冥加相付難ニ候事

廿六 冥加相付難ニ候事

廿七 冥加相付難ニ候事

廿八 冥加相付難ニ候事

廿九 冥加相付難ニ候事

三十 冥加相付難ニ候事

廿一 冥加相付難ニ候事

廿二 冥加相付難ニ候事

廿三 冥加相付難ニ候事

附

下

才一 辰之、一辰仕合

才一 清光智 才辰

才二 才辰好、才辰

才三 才辰入好、才辰

才一 才辰

才一 才辰下平、才辰

才一 才辰

才一 才辰在 才辰上

才一 才辰在 才辰上

才二 才辰上 才辰入

才二 才辰在 才辰在

才三 才辰上 才辰入 才辰

才一 才辰

才一 才辰上 才辰入 才辰

才一 才辰上 才辰

才二 才辰上

才三 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才二 才辰上 才辰上

才三 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才二 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才二 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才三 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才一 才辰上 才辰上

才一









をの心之振ハ餘兩切法有  
廣韻式振有り

一 殿ハ蕩鍊切堂のる大なり  
よの之是よりて 天子の震  
居と称殿もけ利也

一 殿ハ人ハ中と幸子を殿取  
の人の中と云ふハ中右同書  
上ハ昔ハ田の在代ハ下其の  
田の昔ハ法破又ハ殿取と称す  
人の必中右もさたよハ  
鏡少盛名右端少盛名右と  
幸子ハ何多る之是方上ハ  
后下の名よ人ハ中右之  
是れハ幸人ハ是れ也  
能くハハ中右ハ殿取  
信象之是ハ五席ハ物取之信象の  
私法ハ是也

一 此ハ神也、おとし幸子といふれ  
あさきよあねとも人の代  
幸子といふ人ハ人の代  
あさきよハ下又ハ海田も幸  
て又ハ、安吉と幸て又神也、  
ハ幸もハけハ殿取也、  
いふれハ、世の人を物を早  
下して神也、又ハ社神也、  
ハ古祭も粗多ハ神也、  
をのいおとを幸殿の心又ハ  
流ハ幸とよのなれハ神也、  
礼神也、ハハ、是れ也、  
といふハ、甲の末、幸也、社礼  
と名もハ幸也、又おとを  
いふハ、上ハ幸ハハ、  
又ハ、神也、ハハ、甲の殿也、

神代卷之六

分の心之振ニシテ餘西切法有り  
廣韻式振有り

一 殿ハ蒲練切堂トクのさ大なり  
よの之是トクよりて 天子の震  
屋キコと称殿も叶利也

一 殿ハ人ハ山中と幸子と殿取  
の人の申トクと云トクハ山右同書  
以上昔ハ田由を代トクハ下其の  
田の昔ハ法破又ハ殿取と称  
人のハ必山右也トクたよハ  
録少然名不端少然名不  
幸子ハ何多トク之見方上ハ  
后本の名ハ人ハ申トク高之  
思れトクも昔人ハ此れも  
邦人ハ申トク一 何れ  
是下此下

一 此ハ神也、おと幸子といふれ  
あさトク子あれも人ハを代  
幸子ハ人ハ人のハ此れも  
又幸子ハ下又ハ海田も幸  
又幸子ハ女也幸子又神也  
幸子ハも叶ハ此れも幸子ハ  
此れも一 世の人ハ此れも早  
下して神也幸子ハ此れも幸  
下古祭も此れも一 此れも  
を代ハおと幸子と昔殿の心又ハ  
此れも幸子ハよの之ハ神也  
此れも幸子ハいふ此れも幸子ハ  
と云ハ此れも幸子ハ此れも  
と名幸子ハ幸子ハ又此れも  
此れも幸子ハ幸子ハ此れも  
又の此れも幸子ハ此れも

下(半)子法

一 少高の半(油)半(留)半(の)は  
少(下)し半(留)し(上)し(下)に  
宜(油)半(留)し(大)半(の)時  
少(高)を(大)高(半)半(た)る(も)半(と)  
少(高)は(半)留(半)と(る)半(の)  
少(高)半(留)し(大)半(の)時  
少(高)半(留)し(大)半(の)時

一 半(油)の(高)半(留)半(の)は(半)半  
少(高)半(留)し(大)半(の)時  
少(高)半(留)し(大)半(の)時

一 別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
少(高)半(留)し(大)半(の)時  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
二月(日)別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日

一 別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
少(高)半(留)し(大)半(の)時  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
二月(日)別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日

一 別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
少(高)半(留)し(大)半(の)時  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
二月(日)別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日

一 別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
少(高)半(留)し(大)半(の)時  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
二月(日)別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日  
別(行)を(此)の(半)半(留)半(の)日

一 乃、母の人の名、家文才を伝  
 言と巧古、漢四文と川年七人の  
 不知文字と并ぬの、夫名月、  
 実字外と半より大、無安の  
 之者して又、人々との好、  
 才して、結句文と、用事と、  
 したるより又、おの、用事と、  
 時、又、之を、果、事、し、之、改、を、  
 此、わ、た、先、の、志、と、報、と、  
 理、之、

- 一切書、不可、
- 一人、世、状、月、之、名、を、
- 一方、口、家、字、名、際、中、
- 一方、口、半、切、師、と、ト、事、
- 一 同、 所、記、中、時、之、実、如、事、

- 一 口、子、分、と、半、事、
- 一 口、神、と、事、
- 一 口、社、氏、と、事、
- 一 口、半、切、字、事、
- 一 口、之、師、と、事、
- 一 口、落、事、事、
- 一 口、福、事、事、
- 一 口、之、名、事、
- 一 口、列、取、事、
- 一 口、自、心、事、
- 一 口、時、別、事、
- 一 口、信、事、
- 一 口、古、院、事、
- 一 口、和、事、
- 一 口、平、人、事、

平人、海、所、入、法、出、法、





右、慈光院山内書之

丹後守之幣九連  
心未滿以入見溪の  
於吉良在是村下也  
月日御判  
大膳山雲寺後

右、慈照院山内書之

新書之居被居有  
河内守之幣上吉了平  
河内守之幣一聽环  
我中別之自西自  
仍吉守一幣之給小油  
之幣書之於動  
上河内守之幣  
月日御判  
上川左近守後

右、常徳院山内書之

菱喰櫛之兄書并  
房挿之英書二下  
心未入之給帳紙  
叶子之於細川右馬以  
下也  
月日御判  
大井田伊豫守後

右、惠林院山内書之

巢大書一和并馬  
二天格之  
非妙也  
月日御判  
南朝依程書之

右、惠林院山内書之古案の  
子之  
二天格之書物

毛馬黒馬之由乎神州也  
と潤(う)く能也一夜三より

暗梅、鶯一居之東海  
表波也、昔、名入  
清感不斜、於伊勢  
下也、下也

月、御別

里見、夜、也

落根、大、白、也、根  
言、梁、夜、也、今、不、双、  
逸、也、法、松、也、五、法、  
能、号、水、也、上、陣、也  
火、入、海、也、今、法、中  
御、授、也、法、會、所、亦  
法、也、辰、也、御、也、平  
山、合、一、也、公、也、法、也

つ終

月、

左、三、清、也

上、月、左、也、御、也

三、天、也

右、法、院、院、成、也、由、吉、也

能、也、唐、果、兒、鶯、也

果、鶯、二、也、也、也、也、元

亦、靜、也、也、法、也、也

也、

月、御、別

左、三、清、也

右、大、智、院、院、成、也、由、吉、也

落、根、也、大、智、一、也、也

居、也、也、會、也、也、也、也

能、也、也、也、也、也、也、也

之、也、也、也、也、也、也、也

月、御、別

大、智、院、也

鳥、山、也、也、也、也







一 旋子 モトウリ 山旋子  
 一 條 シラ 繳 イロ 鈴 シロ 白  
 一 鈴板 俗、於あは  
 一 繫 ス、コ 於子 ス、コ 於押 IE  
 一 架布 架出ル  
 一 外衣 即籠  
 一 鉗袋 生袋 契 イテ  
 一 鉗萱 鉗合子  
 一 鉗箕 膏揚枝  
 一 鉗筍 鉗刀  
 一 泥板 想、樹附板  
 一 獲 和名 波志奈加伊奴  
 一 遺索 牽繩  
 一 首環  
 一 通志 云 唯雄始 始ラ 生スル  
 黄 トス 和 シ 砂 ミ 黄 カウ 膏 ヨウ 俗

和か太か今 素 ス 青白 色  
 隨 ラ 名 リ 俗 況 膏 ノ 白者 ハ  
 唯雄 ヲ 論 セ ト イ へリ 是 新  
 膏 ノ 支 ト ツ 今 俗 名 膏 セ マ  
 花 ハ 噴 カウ 膏 ヨウ 大膏 ト ト ハ 膏  
 屋 ニ 名 後 正 ク 大膏 ト 膏 故  
 白 ク 白 膏 色 化 青 ク 蒼 膏 膏 ト  
 唇 分 タ リ 多 織 編 云 黄 ハ  
 和 加 多 加 茶 ハ 美 豆 世 多 加  
 今 云 登 也 膏 ハ 雛 云  
 十 リ 一 歳 若 膏 シ 膏 膏  
 菓 膏 ト 云 二 歳 膏 膏 膏 膏  
 片 膏 三 歳 膏 膏 膏 膏 膏 膏  
 膏 ト 四 歳 目 秋 膏 膏 膏 膏  
 五 年 返 ラ 一 鳥 屋 サ 六 歳  
 六 鳥 屋 ト 二 鳥 屋 ハ 不 云

七年ヲ七鳥屋ト云七年トハ不  
 云之鳥屋ト云羽ハ巢ヲ限  
 若クハ巢ヲ巢ト云ヘカラス  
 巢ヨリ下ニテ維ヲ飼立タル  
 時ノ辞ニ自ラ巢立タルヲ巢  
 廻ト云年重タルヲ山終ト云  
 イハタ名居セヌシ小山終ト云  
 況有又子孟春ヲ序終ト云  
 中春ヲ半山終ト云季春ヲ  
 双山終ト云今是ヲ年終  
 終頭照抄ニ終ハ毛ヲ習ス  
 夏ニ

一 巢ヲ若草ト云維ノ  
 言又ク

一 小鳥、其名ナシ名居ナレハ  
 名居終ニシテナリ

一 書状、洞ノ  
 名居先 ヲ名居  
 兄終先 終  
 兄終先 終  
 大終先 小終先  
 又一流

一 六月 巢  
 七月 巢廻  
 八月 枝這  
 九月 印  
 十月 土月と細儀ト云元  
 九月海と小山終  
 十月十日終ト云山終ト云

一 時 茶  
 桃花 雀  
 名居ハ只習た名居トナリ

一 檢 養黃 東坡樂府、  
左、牽と養と云右、牽を  
養ト云

一 養人 下の脚亭ハ下馬  
宜ク是禁裏脚亭故之付  
亦不及下馬といふも養字  
亦之人の養ハ各列也

一 役人 養  
養師 養道 養飼  
大飼 大牽 大遣  
責子 列卒 紀責子  
養見 脚執 餅利

草露傳 後四又 十

一 和歌會狀

習化

和歌會所人元々

- 名字 寔敷
- 名字 寔敷
- 名字 寔敷

東何日會所人元々  
下之抄也元々

名女子友  
月日 寔敷

右料伴一重打名ノ名を  
早々し目言の方より東  
時ハ養字と云ハ養字と名  
右の方、早々し 回宗ハ無

無一し之入分書言は成  
久字有り一人より来何  
辰別清光所不令在也  
一 粉敷元印清

朱の十日和歌清言  
名もあはれは白紙  
畏れぬ花を以て上り  
紙に於ては清光の

月  
系左也  
名もあはれ

一 清光の細川遺書清文

年月三の和歌清言  
以上清光の物  
清光の遺書

信系序の

色紙持秋書紙并に書  
春書 文字短こと  
夏書 字古く  
秋白 墨落てると  
冬書 指本のとく  
一 絶句の持は七言に句の付  
七字宛はは、類と  
五の三の絶句に句を  
す

一 色紙持秋書紙并に書  
春書 文字短こと  
夏書 字古く  
秋白 墨落てると  
冬書 指本のとく  
一 絶句の持は七言に句の付  
七字宛はは、類と  
五の三の絶句に句を  
す

野步

遠籬春笋參差出  
滿山野花繚亂開  
屋角布始鳴正急  
暖雲分雨過山未

溪陰堂

白水滿時 雙鷺下  
綠槐高處 一蟬吟  
酒醒門外 三竿日  
卧者溪南 十畝陰

二行七字

○○○○○○○  
○○○○○○○  
○○○○○○○

七 十二 十二

三行三字

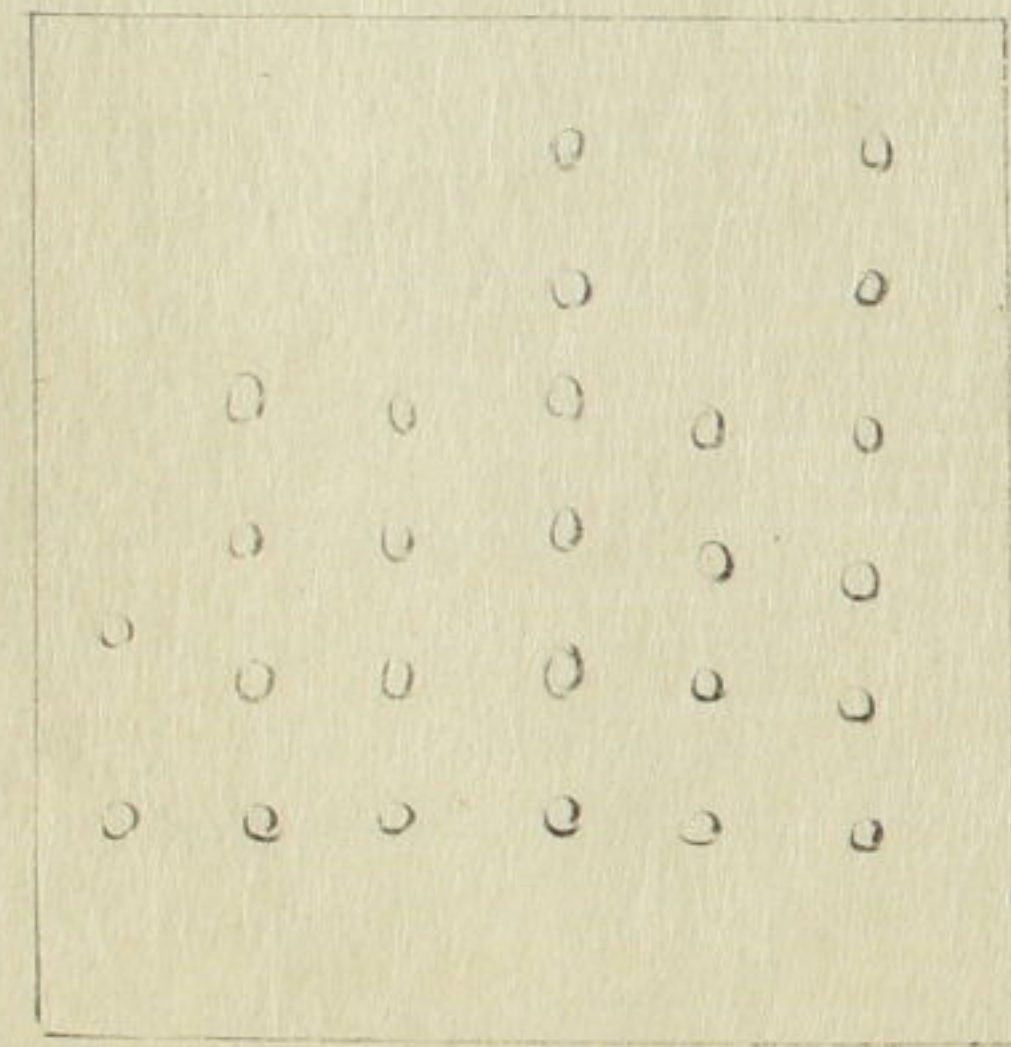
○○○○○○○  
○○○○○○○  
○○○○○○○  
○○○○○○○  
○○○○○○○

三 九 十 九

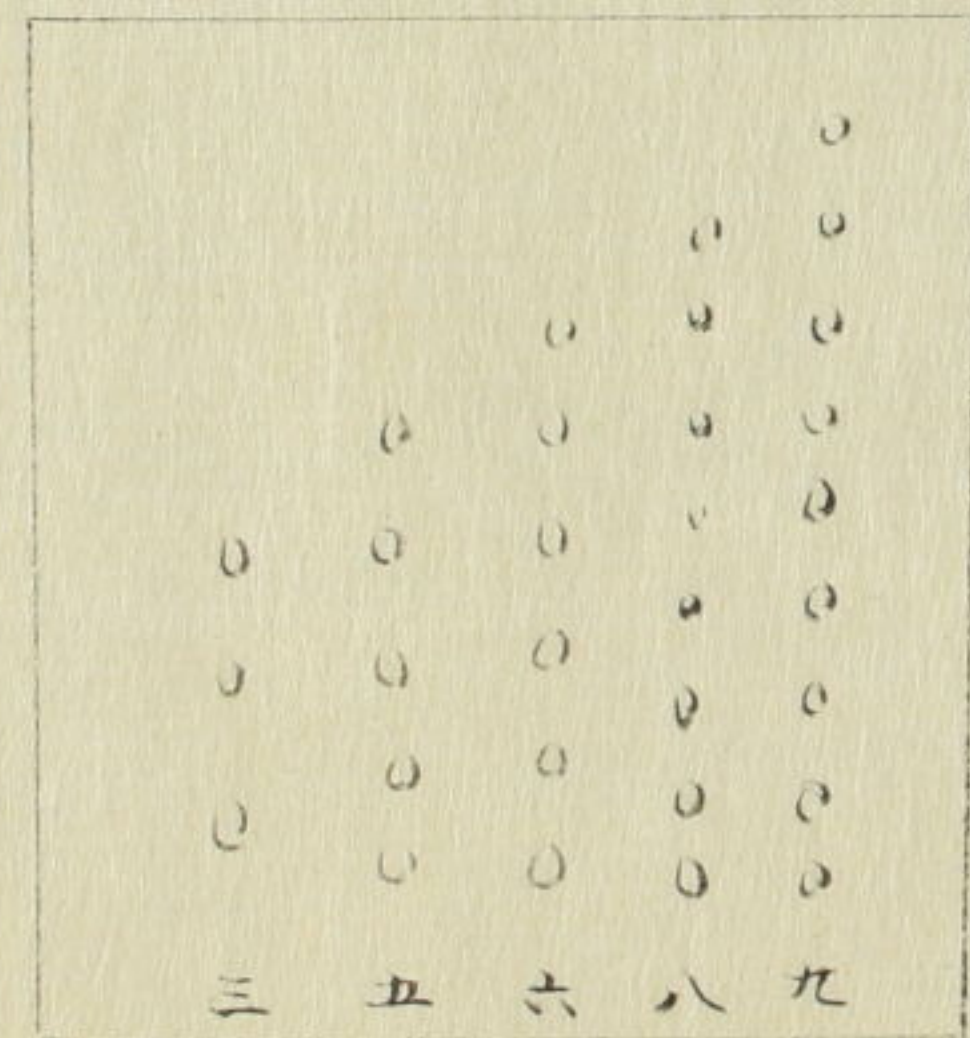
四行字別

○○○○○○○  
○○○○○○○  
○○○○○○○  
○○○○○○○

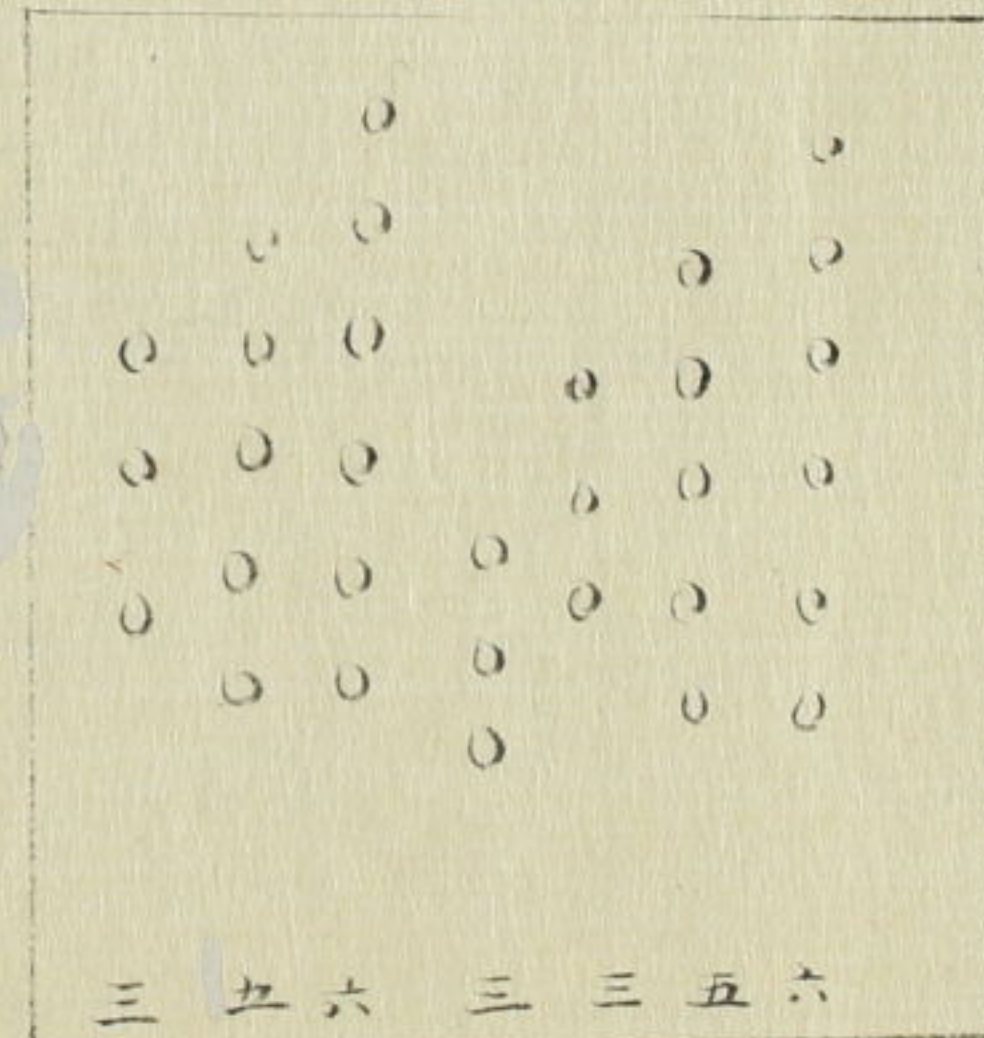
七 八 八 八



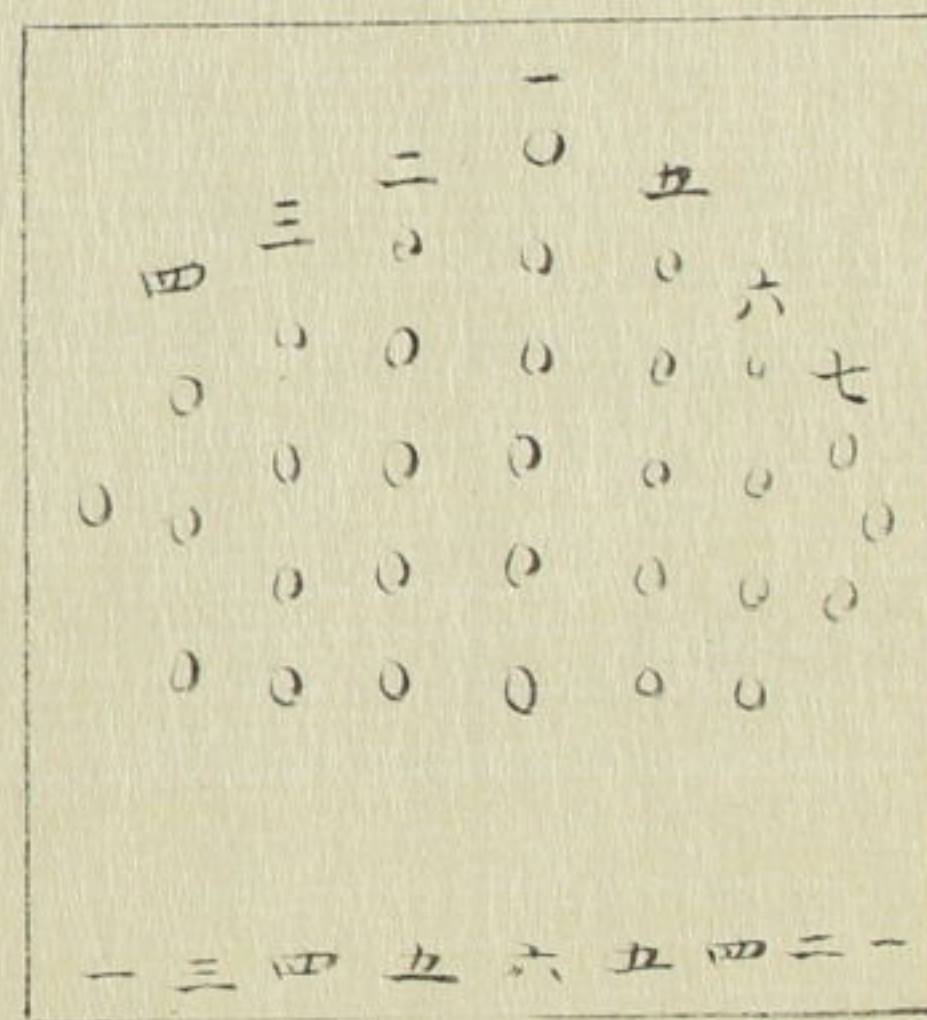
四



亦  
豆



豆  
石



分  
水  
石







一 二枚のちま付に三枚の紙を  
 して三枚目の上へ一字の  
 きて上りの白とまの下の  
 上の白一字をけず下の白  
 七分上して下を掛ま色

糸落付いさう言に紙  
 多し字いさう紙をせめ古  
 紙をあらぬ人の三付に紙  
 のうにまゝ或る紙のうに  
 一に二枚紙に紙をまたり  
 下りの白を掛ま色とま  
 紙紙に紙をうてあまふ  
 や又紙を自分と付紙を  
 付に紙多しなりけりとの  
 紙のうに

一 紙を紙を紙天のなけ紙とて  
 紙を紙を紙 里紙の紙の  
 紙のうに

二寸八分。	〇七分
〇	〇二

九分 紙梅	〇七分
〇	〇二

三分 庭上白	〇四分
〇	〇二

三分 湖上 夕辰	〇四分
〇	〇二

右の紙と紙の字を紙と紙天  
 の長紙を紙して紙目を紙を  
 紙のうに

一 紙丹の紙の月日重紙に紙  
 紙の中紙のうに紙を紙

抑々何と柔腰を申す一又紫  
と書しよの二と申はまをま  
して申す一應かたは御  
書をよたよと書し一或は  
よと書り

一 懐紙のめり上右は字に奇  
くまると書し一と申中興  
より書し 天子及二言に  
大言の御より中中言と書し  
あり歌の多かばなり字紙  
まといふと古押紙の一本  
を御の字と書しと名に歌  
詠と申す歌のよる各人  
酒を申す

一 一回御と申す各一と歌し清  
の申一人と申す御と申す

一 上、御の字を言はれ家おと  
る井の風よりかた一首の付  
二のり字と申す一上、御の字  
と書し一よる各人酒を  
申す

春日詠若菜和歌

左近清中将若菜和歌

奇書流

思ふ代ものごとかに  
しをたれは字本と書  
のりけりたれりか  
先と書し

一 懐紙と書し中興人の法書流  
に書り

一 書流りた人の此書名を申す



冬日咏遠山古和歌

僧正照觀

〇〇〇 同前

冬日同詠古後羽和歌

伊弉諾大浦

題

〇〇〇 同前

右は季の情状をよむ一首

の河川詠一首とふた二首より

詠二首詠三首とす

一 詠事書依のよ 終は後

二 波ありて 湊人の名書

とて 詠をす

大細言 橋羽位雅玄 上

詠七夕扇

七夕のたふきの風 林

たらく 今より後

河を へりき

冬

源朝臣宗久 上

白波のこもり 冬ふれ 暮末の

けしきも 見え 松出

舟の 影出 名を 清川

合 名を あり したま へ

一 連歌詠奏事依

たは へり

一 葉詠 源朝臣宗久

たは 詠 一葉 ありき

詠 一葉 ありき

初

子墨紙一枚、二寸まで宗  
通(寸)の千白万白舟  
此尺尺紙の寸く切て紙  
を千付と言ふなり東の舟を  
紙の舟とて又いふは此尺  
尺より一寸半して此右の舟  
と二寸半舟宗通(寸)の舟  
舟掛りをも寸白と舟掛り  
舟掛りの寸紙の字を舟と  
の舟なり

一 尺尺墨紙の事

不のくくと。  
わりの浦の。  
羽きりよ舟。  
のくもなり。  
舟の舟なり

一 尺尺寸法は二条の舟世郷と  
此の法御と此味りて寸法  
と此法と寸法と此法と寸法  
寸法の法は寸法と寸法

天子

長一尺一寸八分二寸  
幅一寸八分二寸  
所製と平人調付  
長一尺一寸六分  
幅一寸八分

法ぬの寸法

長一尺一寸八分  
幅一寸八分

一 色紙の量如不明一法  
此の舟の舟の舟の舟の舟  
舟の舟の舟の舟の舟の舟  
舟の舟の舟の舟の舟の舟

聖古付界横六寸六分小  
聖六寸横六寸五分又大聖  
六寸九分横六寸九分小聖  
六寸横六寸五分小聖  
色紙の常上より半紙より  
散紙法よりよめは情紙  
末の松葉冊の第の松

旅頭哥

ますすめくん  
とこららるる  
むらむらわて  
えらとらるる  
あふららとれ

右方の音二句か

混下哥

あふららとれ  
ららとらとれ  
とらとらとれ  
とらとらとれ

右方の音三句か

打白

あふららとれ  
とらとらとれ  
とらとらとれ  
とらとらとれ

皆冠

あふららとれ  
とらとらとれ  
とらとらとれ  
とらとらとれ



幅也

あつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと  
つとつとつと

侍歌

これか自をといふ歌も  
花を待て月半積といふ  
あり

打歌

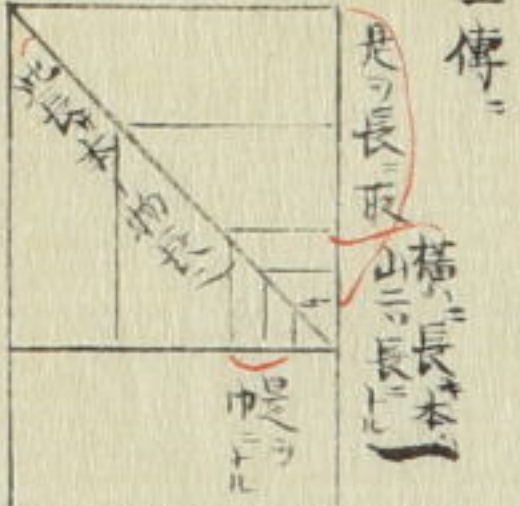
これか當年を待て  
未だと待て

君を待たぬとつとつと  
たりとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつと

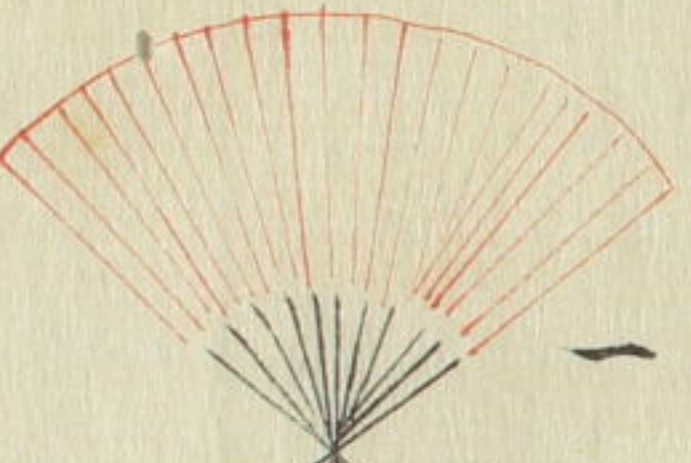
落歌は歌を待て待て

さつとつとつとつと

此つとつとつとつと  
幅もつとつとつとつと



幅は長さの二に折る  
長さの二に折る  
幅は長さの二に折る  
長さの二に折る  
幅は長さの二に折る  
長さの二に折る



一扇は長さの二に折る  
幅は長さの二に折る  
長さの二に折る  
幅は長さの二に折る  
長さの二に折る  
幅は長さの二に折る  
長さの二に折る  
幅は長さの二に折る  
長さの二に折る  
幅は長さの二に折る  
長さの二に折る



六

洞字  
洞字

洞字  
洞字

洞字  
洞字

